

< その他、取組に特徴のある事例 >

## トキのえさ場確保に向けたビオトープの整備

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	新潟県佐渡市 月布施			
協定面積 4.9ha	田(100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稲			
交付金額 101万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	水路・農道の管理及び補修費		25%
		共同機械利用及び設備費		10%
		多目的機能増進活動費		10%
	役員手当・事務費		5%	
協定参加者	農業者15人、非農業者4人			

### 2. 取組に至る経緯

トキが最後に捕獲された小佐渡東部エリアにある当集落では、平成11年に、集落の美しい景観を次世代に残したいという思いから、若手が集まり「月布施を考える会」を発足した。市単事業等を活用しながら道路沿いの花壇作りや耕作放棄地の復旧など、集落内の環境整備に取り組んできた。

平成17年度からは、「月布施を考える会」を中心に、集落協定を締結し、機械や農作業の共同化など営農体制の整備のほか、耕作放棄地の復旧を集落協定に位置づけて取り組んでいる。

### 3. 取組の内容

「NPO法人棚田ネットワーク」や「NPOトキの島」との連携のもと、首都圏大学生など島内外のボランティアを受け入れ、年6回、耕作放棄地の復旧やビオトープづくりなどを実施している。整備したビオトープは、管理担当者を設置して維持管理を行っており、農地保全だけでなく、平成20年秋に放鳥されたトキのえさ場確保に貢献している。

この活動を通じ、ボランティアとの継続的な交流も生まれ、集落の活性化につながっている。



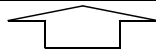
ボランティアとの共同作業



復旧後の農地

[ 集落の将来像 ]

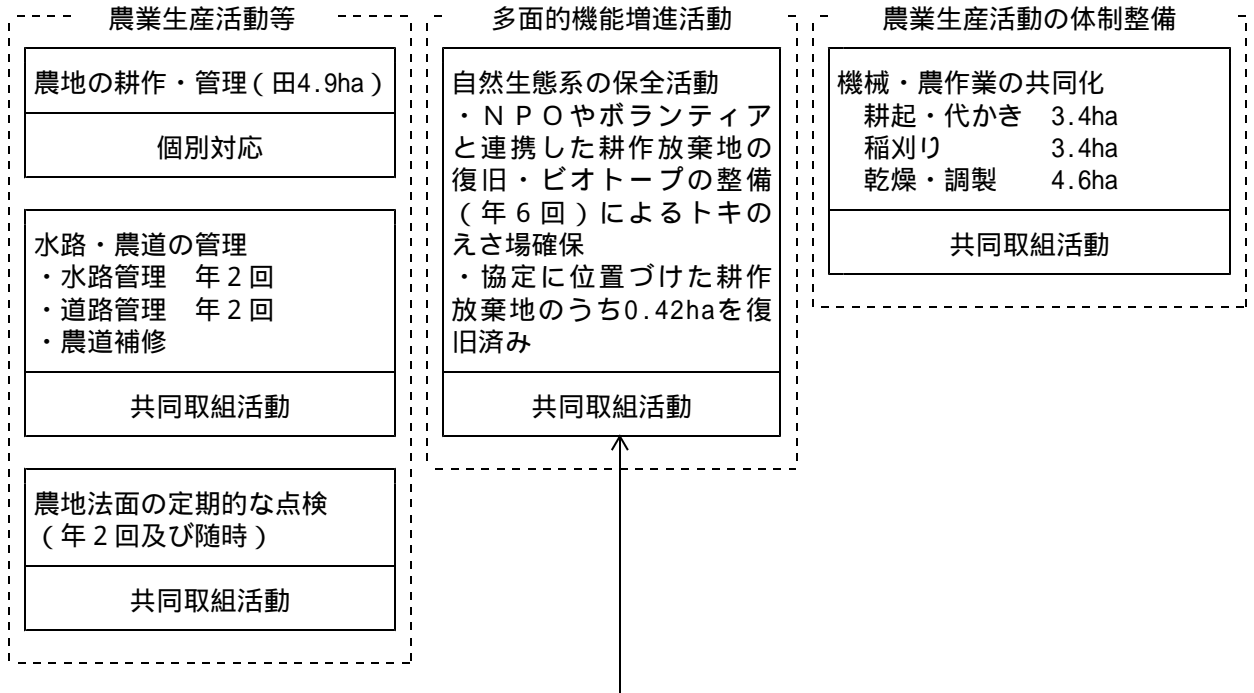
現在の水稲作付面積を維持しつつ、耕作放棄地のピオトープ化で棚田を守り、山の荒廃を防いでいく。また、機械の共同利用を進めることにより効率化を図り、空いた時間で付加価値産物を作り、地域の活性化を図っていく



[ 将来像を実現するための活動目標 ]

自然生態系の保全に関するNPOやボランティアとの連携  
農業機械の共同利用による営農の効率化・低コスト化

[ 活 動 内 容 ]



集落外との連携

- ・非農家、NPO、ボランティアとの連携による耕作放棄地復旧・ピオトープ整備
- ・20年度までの耕作放棄地復旧面積2.76ha (うち協定農用地0.42ha)

4. 取組による変化と今後の課題等

ボランティアと連携した取組により、継続的な交流が生まれ、農地の保全・トキのえさ場確保だけでなく、集落の活性化や取組意欲の向上が図られている。

今後も、月布施の美しい景観の保全やトキと共生できる山里づくりを目指し、耕作放棄地のピオトープ化のほか、周辺の森林や川の整備を行っていく。また、ボランティアとの交流を継続し、多くの人々が訪れたいような環境を整え、元気のある集落活動を展開していく。

[ 平成20年度までの主な成果 ]

自然生態系の保全に関する学校教育等との連携

- ・NPO、ボランティアと連携し耕作放棄地を復旧 (目標0.42ha、H20まで実績0.42ha)

機械の共同利用による営農の効率化

- ・トラクター、コンバインの共同利用 (当初0ha、目標1.5ha、H20実績3.3ha)
- ・乾燥機の共同利用 (当初0ha、目標1.7ha、H20実績4.5ha)